

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 23 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320142

研究課題名（和文） 戦後西ドイツにおける「社会国家性」の歴史的展開
—家族をめぐる「包摂」と「排除」研究課題名（英文） “Sozialstaatlichkeit” in the History of Postwar Germany
—Dynamics of “In- und Exclusion” Concerning Families

研究代表者

川越 修 (KAWAGOE OSAMU)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：40140090

研究成果の概要（和文）：(1)当初2年間は、新たな史料を掘り起こすため、ドイツにおける調査を集中して行った。(2)研究期間最終年度に、学会シンポジウム（日本西洋史学会、ドイツ現代史学会）および公開シンポジウム（同志社大学人文科学研究所）において、史料調査に基づく研究成果を発表した。(3)3年間を通じて海外研究協力者（ホッケルツ・ミュンヘン大学教授）との連携を進め、2011年3月に同大学クラー博士を招聘し京都において2日間のセミナーを開催した上で、同年11月、ミュンヘンにおいて Max-Planck-Institut für Sozialrecht und Sozialpolitik in München、Zentrum für zeithistorische Forschung Potsdam と共催で公開ワークショップを開催した。

研究成果の概要（英文）：(1) The first two years of the research period were devoted to finding and collecting new historical materials in Germany. (2) In the third year, the results of our concerted research of these materials were presented at the symposia of the Japanese Society for the Occidental History, the Society for the Modern German History, and the Institute of Human Sciences (Doshisha University), respectively. (3) In addition to these, throughout the research period, we established close connections with Professor Hockerts and Dr. Kuller of the University of Munich. As a result of this cooperation, we held two-day research seminar with Dr. Kuller in Kyoto in March 2011 and an open workshop jointly sponsored by the “Max-Planck-Institut für Sozialrecht und Sozialpolitik in München” and the “Zentrum für zeithistorische Forschung Potsdam” in Munich in September 2011.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,800,000	2,040,000	8,840,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2011年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：西欧近現代史

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の基軸となった「社会国家性」概念は、海外研究協力者であるホッケルツ・ミュ

ンヘン大学教授によって 1990 年代にドイツ現代史研究に導入されたものであるが、日本を含む 20 世紀社会の比較研究のツールとしての可能性はまだ検証されていなかった。

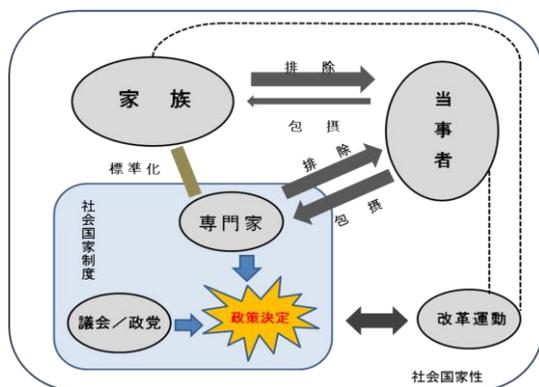
(2)本研究の代表者と分担者および研究協力者は研究開始時点で、特定の研究支援を受けていないインフォーマルなワークショップの成果を公刊（川越・辻編『社会国家を生きる』法政大学出版局、2008年）しており、本研究ではそれを通じて獲得された、ドイツ社会国家の歴史を制度および政策の歴史としてではなく、政策の対象となり文字通りその制度を「生きた」人々の側から描くという視点を継承・発展させることが課題となった。

2. 研究の目的

「社会国家性」という概念を基軸にすえ、「社会国家を生きる」家族に分析対象を絞りこみ、家族と社会国家の関係の変化を共通の分析枠組みを使って検証することによって、戦後「西ドイツ」社会を 20 世紀ドイツ社会史の流れのなかに埋め込み、その歴史的特質を浮かび上がらせることを基本目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、下図に示した共通の分析枠組みに沿った個別研究をベースに、京都、東京、名古屋で開いたワークショップ（初年度 5 回、第 2 年度 6 回、最終年度 4 回）における報告と相互討論を通じて、凝集性の高い共同研究を遂行するとともに、新たに中間組織という概念を設定し研究目的の具体化を図った。



4. 研究成果

「研究成果の概要」において挙げた 4 つのシンポジウムないしワークショップのうち、Workshop: Japanische Perspektiven auf den deutschen Sozialstaat im 'langen' 20. Jahrhundert (2011年9月8日、Max-Planck-Institut für Sozialrecht und Sozialpolitik,

München) における報告者と報告題名（ペーパーのみの参加者を含む）をテーマ別に提示することによって、研究成果の全体像を明らかにする。

(1)社会国家のダイナミズム

—家族をめぐる包摂と排除

馬場：Hauspflege in der Weimarer Zeit.
北村：Kriegsversehrtenversorgung in der Bundesrepublik in den 1950er Jahren.

(2)揺れる社会国家

—家族の多様化とジェンダー秩序

水戸部：Das Mythos „Moderne Familie“: Vom Kaiserreich bis in die 80er Jahren.
白川：Die Familie und der Sozialstaat im Wandel. Aus der Debatte der CDU in der zweiten Hälfte der 70er Jahre.
石井：Väter im Sozialstaat. Der politische Entscheidungsprozess des Erziehungsgeldes in Japan und Deutschland von den 1960er zu den 1980er Jahren.

(3)社会国家と中間組織

—国家・市場・家族をつなぐもの

辻：Kontinuitäten und Diskontinuitäten des intermediären Sektors in der Bonner Republik und in der DDR.
服部：Das Familienbild in der Naturheilbewegung der wilhelminischen Zeit: Zur Analyse der Artikel aus „Der Naturarzt (Organ des Deutschen Bundes der Vereine für naturgemässe Lebens- und Heilweise)“.
中野：Freie Wohlfahrtspflege im Sozialstaat. Am Beispiel der Caritas in der BRD in den 1950er Jahren.
川越：Gab es in der ehemaligen DDR intermediäre Organisation? Zu den Aktivitäten der Volkssolidarität.

なお、上記の(1)に原（「ヴァイマル期のクライン・レントナー問題—中間層単身女性の老年期」、(3)に服部・辻（「社会国家化のオルターナティブ—世紀転換期の自然療法運動と生活改革運動」）の 2 論文を加えた形で、3 年間の研究成果を 2012 年度中にまとめ、出版する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

1. 中野智世、西欧福祉国家と宗教—歴史研

- 究における新たな分析視角をめぐって、
ゲシヒテ、査読無、5号、2012、53-66
2. 水戸部由枝、My Revolution: 1960-70年代の西ドイツ社会国家にみる「性の解放」、ゲシヒテ、査読無、5号、2012、3-18
 3. 原葉子、ヴァイマル期ドイツにおける「更年期」言説—シュテルツナーの主張を中心に、お茶の水史学、査読有、55号、2012、33-68
 4. 川越修、社会国家の思想的基盤—歴史への問い、社会思想史研究、査読無、33巻、2010、8-18
 5. 北村陽子、戦間期ドイツにおける戦争障害者の社会的地位、社会科学（同志社大学人文科学研究所）、査読有、40巻、2010、55-75
 6. 白川耕一、西ドイツ社会国家の「学習過程」—1970年代半ばの2大政党の動向を中心に、現代史研究、査読有、55号、2010、23-37

[学会発表] (計13件)

1. 川越修、旧東ドイツに中間団体は存在したか?—「人民連帯」(Volkssolidarität)の活動をめぐって、ドイツ現代史学会第34回大会、2011.9.17.、東京大学駒場キャンパス
2. 辻英史、「第二次」ドイツ社会国家群?—社会国家の連続と不連続について、ドイツ現代史学会第34回大会、2011.9.17.、東京大学駒場キャンパス
3. 中野智世、西ドイツ社会国家における民間福祉団体—1950年代のカリタス連盟を例として、ドイツ現代史学会第34回大会、2011.9.17.、東京大学駒場キャンパス
4. 石井香江、「育児手当」の政治過程: ドイツ家族政策のもう一つの転換期(1950~1980年代)、日本社会学会第84回大会、2011.9.17.、関西大学馬場わかな、ヴァイマル期における在宅看護と家事援助、日本西洋史学会第61回大会小シンポジウム、2011.5.15.、日本大学文理学部
5. 北村陽子、第二次世界大戦後西ドイツにおける戦争障害者援護、日本西洋史学会第61回大会小シンポジウム、2011.5.15.、日本大学文理学部
6. 白川耕一、1970年代の西ドイツにおける諸政党の家族政策観、日本西洋史学会第61回大会小シンポジウム、2011.5.15.、日本大学文理学部
7. 水戸部由枝、ドイツの「68年運動」と「性の解放」—西ドイツの学生運動にみる「性革命」という神話、ドイツ現代史学会第33回大会、2010.9.19.、関西大学
8. 中野智世、慈善と医学のあいだで—20世

- 紀初頭ドイツにおける「クリュッペル(肢体不自由児)」救護事業とその論理、日本西洋史学会第60回大会、2010.5.30.、別府大学
9. 馬場わかな、近代家族と地域的紐帯—世紀転換期ハンブルクにおける在宅看護・家事援助協会を事例として、日本西洋史学会第60回大会、2010.5.30.、別府大学
 10. 辻英史、Bürgerliche Sozial- und Lebensreformbewegung zwischen Bürgersgesellschaft und Sozialstaat、日独共同大学院2009年秋期セミナー(東京大学総合文化研究科・マルティン＝ルター大学)、2009.10.6.、マルティン＝ルター大学(ハレ・ヴィッテンベルク)
 11. 川越修、歴史のなかの社会国家—1989年以降の研究を手がかりに、ドイツ現代史学会第32回大会シンポジウム、2009.9.20.、東京外国語大学
 12. 水戸部由枝、Abortion Debate and Women's Protest Ethics during the 1970s in a Divided Germany、Heidelberg Center for American Studies (HCA), University of Heidelberg: the Marie Curie Conference "Shaping Europe in a Globalized World? —Protest Movements and the Rise of a Transnational Civil Society"、2009.6.26.、チューリヒ大学

[図書] (計3件)

1. 辻英史、他、ミネルヴァ書房、フィールドから考える地球環境—持続可能な地域社会をめざして、2012、280
2. 服部伸、他、昭和堂、識字と読書—リテラシーの比較社会史、2010、360
3. 川越修、他、ナカニシヤ出版、ワークショップ社会経済史—現代人のための歴史ナビゲーション、2010、223

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川越 修(KAWAGOE OSAMU)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号: 4014090

(2) 研究分担者

服部 伸(HATTORI OSAMU)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号: 40238027

辻 英史(TSUJI HIDETAKA)
法政大学・人間環境学部・専任講師
研究者番号: 80422369

中野 智世 (NAKANO TOMOYO)
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：90454470

石井 香江 (ISHII KAE)
同志社大学・言語文化教育研究センター・
准教授
研究者番号：70457901

原 葉子 (HARA YOKO)
お茶の水女子大学・人間発達教育研究セン
ター・研究協力員
研究者番号：30532155

水戸部 由枝 (MITOBE YOSHIE)
明治大学・政治経済学部・専任講師
研究者番号：20398902

北村 陽子 (KITAMURA YOKO)
愛知工業大学・基礎教育センター・准教授
研究者番号：10533151

白川 耕一 (SHIRAKAWA KOICHI)
同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員
研究者番号：40444939

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
馬場 わかな (BABA WAKANA)
茨城大学・人文学部・非常勤講師

高岡 裕之 (TAKAOKA HIROYUKI)
関西学院大学・文学部・教授

石井 聡 (ISHII SATOSHI)
近畿大学・経済学部・教授

HANS GÜNTER HOCKERTS
ミュンヘン大学・歴史学部・教授 (emer.)

CHRISTIANE KULLER
ミュンヘン大学・歴史学部・私講師